

令和4年度 第77回 大学院セミナー

令和5年3月1日

分野名 Area of Research (責任者名)(内線)	ウイルス感染制御学分野 責任者名(南保明日香) 内線(7970)
演題 Title	フィロウイルス研究の現状と展望
講師等 Presenter	高田 礼人 先生 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 教授
概要 Abstract	エボラウイルスおよびマールブルグウイルスを代表とするフィロウイルスは、発見当初からしばらくの間アフリカ特有の病原体であると考えられていた。しかし現在は、エボラウイルスやマールブルグウイルスによる感染症の発生報告が無い地域の動物から抗体やウイルスが検出されていることや、ヨーロッパやアジアにおいてもフィロウイルス科に属するウイルスの存在が確認されていることから、未知のウイルスも含めて様々なフィロウイルスがアフリカ以外にも広範囲に分布することが示唆されている。一方で、エボラおよびマールブルグウイルスによる感染症(エボラ出血熱およびマールブルグ病)の発生は散発的にアフリカ諸国で報告され続けている。西アフリカ諸国(2013-2016年)およびコンゴ民主共和国(2018-2020年)で発生した大規模なエボラ出血熱流行の際に、本感染症の予防・治療・診断法の研究開発が加速したことによって様々な臨床試験が進められ、そのうちの幾つかはエボラウイルスに対するワクチンや治療薬として承認されるに至っている。一方で、回復後の持続感染と再発例が確認されるなど、新たな問題も浮上している。本講演では、私たちの研究グループで行ってきた研究内容を含め、エボラおよびマールブルグウイルスに関する研究の現状を紹介したい。
開催日時 Date and Time	令和5年3月27日(月) 16:00 ~ 17:00
開催方法 Online/Face to face	高度感染症研究センター1F 大会議室
備考 Notes	問合せ先:柳 雄介(高度感染症研究センター 内線 8501 or Email:yanagi@nagasaki-u.ac.jp) Contact Prof. Y. Yanagi at ext. 8501 for questions regarding this seminar.

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)